

第7版(2020年6月10日)

プロジェクト憲章

児童にプログラミング的思考を養成する 交通安全アプリケーション開発プロジェクト

1. プロジェクト名

「児童にプログラミング的思考を養成する交通安全アプリケーション開発プロジェクト」

2. プロジェクトの概要

茅ヶ崎地区交通安全協会をクライアントとした交通安全をヒントにプログラミングを学ぶことを目的としたアプリケーション

3. プロジェクトの背景

学校で行われている交通安全教室の講義後の復習教材として楽しくゲーム感覚で交通ルールを身に着けさせる。

4. プロジェクトの目的

- ・ 小学校でのプログラミング教育で必要とされる、主体的に取り組む態度を涵養するアプリケーションを作成すること。
- ・ プログラミング教育で育む資質・能力の一つである論理的に考えていく力、プログラミング的思考を育むこと。
- ・ 前操作期から具体的操作期へと変化して行く中、交通安全の意識は小さい。付き添ってくれる大人のいない通学の時間では、自分で安全を確保しなくてはならない。交通ルールの大切さを知ってもらい、児童が交通事故に遭遇する可能性を少しでも減らす。

5. プロジェクトの目標

- ・ 児童が操作しやすく理解のしやすいアプリケーションを目指す。
- ・ 小学生のうちから論理的思考を鍛える。
- ・ 面白いコンテンツでプログラミング学習に対して苦手意識を克服させること。
- ・ 児童が交通安全に意識を持たせ、どうしたら安全に危険に陥ることなく道を歩けるかを理解させる。

6. プロジェクトの要求事項

- ・ 実現する機能

ユーザーが学ぶ意欲を損なわないゲーム性。
ユーザーが困らないような操作のしやすさ。

- ・ 成果物
iOSアプリケーションの完成
- ・ 作業範囲
デジタルコンテンツの開発と評価

7. プロジェクトの環境

Unity

Adobe Illustrator

Adobe Photoshop

8. プロジェクトのスケジュール

3月 企画の立案

4月 技術検証

5月 アプリケーションの制作開始

6月 アプリケーションの試作

7月 詳細設計

8月 アプリケーションの修正

9月 アプリケーションの完成

10月 アプリケーションの実装テスト

11月 アプリケーションのブラッシュアップ

12月 アプリケーションの発表

9. コスト プロジェクトの資源

プロジェクトマネージャー1万/時 システム開発担当 デザイン担当 0.5万円/時

プロジェクト資源：Unity Adobeのライセンス

10. 前提条件と制約条件

前提条件：プロジェクトを進める上で、プロジェクトのメンバー6人に役割を与える

システム開発担当3人、デザイン担当2人とする

プロジェクトマネージャーはシステム開発担当を兼任する

制約条件：アプリケーションの完成、12月に行われる発表会までの期限厳守

11. 想定するステークホルダー

クライアント：茅ヶ崎地区交通安全協会

エンドユーザー：小学生

開発者：A01班

12. プロジェクト承認要求事項

判断基準：新規性のある課題解決へつながるプロジェクトであるかどうか

担当者：池辺正典先生

13. プロジェクトマネージャーの責任と権限

責任：プロジェクトの完遂

権限：プロジェクトを管理する権限・スケジュールを組む権限

14. プロジェクト憲章の認可

プロジェクト憲章を認可する人物：池辺正典先生